

課題名	72 ナバナの安定栽培技術確立	分類	①
	2) ナバナの播種期		
試験研究年次	63~1年(完了)		
I 目的 ナバナの播種期が生育ステージならびに収量に及ぼす影響について検討し、栽培技術確立の資料とする。			
II 試験方法			
1 試験場所 豊前分場 1号圃			
2 供試品種 京築在来系統(ミチノクナタネ系)			
3 試験区 播種期 8月12日、8月22日、9月1日、9月11日、9月21日			
4 耕種概要			
(1)うね立て移植栽培			
(2)栽植密度 うね幅 150cm、条間 60cm、株間 35cm、2条千鳥植			
(3)施肥法 (Nkg/10a)			
基肥 追肥			
18 4 4 4			
使用肥料 基肥 硫加リン安 250、CDU 555をN成分で2:1			
追肥 硝リン安 646			
5 試験規模 1区 8㎡ 2区制			
III 主要成果の概要			
1 播種から定植の5葉期までの日数は、8月下旬~9月播種で25~30日程度である。定植から収穫期の18葉期までの日数は、8月中旬~9月上旬播種で30日程度である。9月中旬以降の播種では、生育は天候に大きく左右される。			
2 播種期が早いほど収穫始期は早まり、総収量は増加する。収穫本数は低温期に減少するが、3月には気温の上昇と花蕾の抽出により大幅に増加する。			
3 8月播種では育苗期に立ち枯れ病が発生し、アブラムシ、コナガ、ウイルス病の発生も多い。			
まとめ 8月播種では収穫期が早まり総収量が増加するが病害虫の発生も多くなるので、十分な防除対策を必要とする。9月上旬播種は病害虫の発生は少なく、1~2月の収量も多く安定している。従って、これらの作型の組み合わせによって、安定出荷をはかることができる。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 ナバナの葉令の推移

播種日	63# 9/1	11	21	10/1	11	21	11/1	11	21	12/1	11
8月12日	4.9	8.7	14.2	19.3							
8月22日		4.4	7.2	11.0	15.0	19.6					
9月1日			4.0	6.5	10.0	14.4	19.3				
9月11日				3.8	6.1	9.3	13.0	16.4	18.9		
9月21日					3.5	5.8	8.6	11.4	13.8	15.4	16.8

第2表 ナバナの月別収穫本数

播種日	63# 9月	10月	11月	12月	1# 1月	2月	3月	合計
8月12日	3.1	6.6	10.5	5.5	7.6	11.1	25.1	69.5
8月22日		3.5	11.9	3.8	8.5	14.1	27.9	69.7
9月1日		3.5	4.2	3.3	8.3	12.2	28.5	60.0
9月11日			0.5	3.8	5.8	10.2	31.9	52.2
9月21日				0.8	8.0	9.9	25.4	44.1

注) 単位: 本/株

第3表 ナバナの月別収量

播種日	63# 9月	10月	11月	12月	1# 1月	2月	3月	合計
8月12日	55	107	166	95	111	142	152	828
8月22日		72	151	61	138	176	171	769
9月1日		42	62	51	129	148	203	635
9月11日			8	50	80	171	227	536
9月21日				17	86	144	164	411

注) 単位: g/株

V 成果の評価と取扱上の留意点

8月播種では育苗期に防虫ネットが必要である。ウイルス病、コナガの防除のため育苗期及び生育初期の防除を徹底する。

VI 今後の研究上の問題点

周年栽培法の検討

VII 資料名

63~1年度 福岡県農業総合試験場 豊前分場 普通作物研究室 野菜試験成績書